**動物看護総合実習　指導要領　　（教員）**

はじめに ＃①　（一般社団法人日本動物看護職協会 倫理綱領前文より一部抜粋）

【① 指導ポイント】

動物看護総合実習全体としての目標であることを意識させ、最終実習が終了した時点での仕上がりのイメージを持たせる指導を行う。

　動物も人と同様に、自らの存在を尊重され、健やかな生活を送ることを願っている。し

かし、動物たちには言葉はなく、直接人間に訴えることはできない。人間は、動物たちが

人間に何を望んでいるかを常に考え、動物たちの思いに応えなければならない。

動物看護師は、動物の看護を業務として動物医療の最前線で活動する専門職である。

　動物の看護は、多様な環境に生存する多様な動物種を対象として、動物の健康の保持と

増進、病気の予防と動物医療の補助に務め、動物たちが健やかな一生を全うするように援

助することを目的としている。

　動物も個々の個性がある事を認識し、時期と状況に応じた個別的判断や創造的思考を持

って、動物看護を行う能力を養う必要がある。そのためには、動物の特性を把握し、その

動物にとって幸せとは何か、ＱＯＬ（生活の質）を高めるためにはどのような援助をすれば

【② 指導ポイント】

動物看護師という職が意義ある職業であることを理解させ、学習意欲、就職意欲を高めさせる。

よいか考え、実際に実践していく必要がある。

　動物看護総合実習は、体験によって必要な技術を実践できる能力を養うだけではなく、

自らの人間性を養い、専門職としての資質を高める場である ＃②。

Ⅰ．動物看護総合実習の目的 ＃③

【③ 指導ポイント】

教科としての目的なので、学生には個別に目的を立てさせる。

自身の動物看護師像等。

■ 理解型実習の目的

１．動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等）を理解する。

　２．動物病院内で動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。

３．学内でのカリキュラム、各教科と実際の業務との関連を知ることで、必要性や

　　　目的を理解し、意欲の向上を図る。

■ 体験型実習の目的

１．動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、スタッフの構成等）を理

解し、**自身が動物病院でどのように加わるかを考える。**

２．学校で修得した知識や技術が、動物看護業務を実践する上で必須であることを

理解する。

３．飼い主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなか

で、円滑な人間関係を築くために必要な技術や能力を修得する。

■ 実務型実習の目的

１．動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等）を理解し、

**チームで行う愛玩動物に対する医療を体験する。**

２．総合的な動物看護の実務に関わる指導を受け、動物看護師実務能力を修得する。

３．動物看護師としての役割や責任について、認識を深める。

【④ 指導ポイント】

教科としての目標なので、学生には個別に目標を立てさせる。

挨拶や礼儀を重視する等。

Ⅱ．動物看護総合実習の目標 ＃④

■ 理解型実習の目標

１．オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。

２．獣医師・動物看護の業務内容（役割の違い、一日の流れ、など）を把握する。

　３．動物病院の施設を見学し、施設の概況や機能を理解する。＃⑤

【⑤ 指導ポイント】

動物医療はサービス業であることから、来院者への接遇および動物への応対は大事なことである。また、地域・社会における動物病院の立場も感じ取ること。

　４．動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。

　５．学習者として適切の行動できるよう、社会常識やマナーを実践する。

　６．学内でのカリキュラムや各教科と動物病院における実際の動物看護業務との関

連を知り、必要性を理解する。

■ 体験型実習の目標

1. オリエンテーションを受け、**実習を通して実際の動物看護業務を体験し、その**

**職務内容を理解する。**

1. 可能な範囲で行う実習項目において、動物看護師としての業務、役割を果たす。
2. チームで行う愛玩動物に対する医療は、獣医師・動物看護師・スタッフ全員が

それぞれの役割を担いつつ、協力し合うことで最善の成果を出せることを理解し、

良好なコミュニケーションを構築する。

1. 動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について理

解する。

1. 学内でのカリキュラムや、各教科と動物病院における実際の動物看護業務との

関連について、認識を深める。

■ 実務型実習の目標

1. オリエンテーションを受け、**動物看護師として実際に就業することを理解する。**
2. 指導者の助言を受けながら動物病院における獣医師との連携のなかで看護計画

の展開を修得し、動物看護実務を遂行できる能力を養う。

1. 動物看護に関する多くの項目について技術を、可能な限り体験し学習する。

４．動物病院内における動物看護師の役割や、チームで行う愛玩動物に対する医療

　　の機能、行動、責務について考えることができる。

５．動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など、基本的な事項について

認識を深める。

６．学内でのカリキュラムや、各教科と動物病院における実際の動物看護業務との

関連を十分に把握し、実践に活かす。

Ⅲ．動物看護総合実習の履修時間と実習計画 ＃⑥

【⑥ 指導ポイント】

実習のサイクルは動物看護課程と合致するものであり、実習を通して実践する事が、動物看護課程の演習になる事を意識させる。実施時期・時間配分は各校の事情による。

■ 理解型

【２４時間】

【 ２時間】

【 ２時間】

【１６時間】

【 ４時間】

理解型実習総履修時間数　　　１年次前期

理解型実習前教育

理解型実習オリエンテーション

理解型実習

理解型実習後教育（振り返り）

【⑦ 指導ポイント】

実習前教育学習活動は、履修科目のチェック⇒自己分析⇒ゴールシート作成（目的・目標設定、行動計画立案）⇒ポートフォリオ作成演習⇒実習技術チェックリスト記入方法等が想定される。フラットファイルを準備し必要書類を綴じさせる。

　　■ 体験型

【２４時間】

【 ２時間】

【 ２時間】

【１６時間】

【 ４時間】

体験型実習総履修時間数　　　１年次課程修了後～２年次前期

体験型実習前教育

体験型実習オリエンテーション

体験型実習

体験型実習後教育（振り返り）

■ 実務型

【２４時間】

【 ２時間】

【 ２時間】

【１６時間】

【 ４時間】

実務型実習総履修時間数　　　２年次体験型実習修了以降

実務型実習前教育

【⑧ 指導ポイント】

記録するだけでなくエビデンスとしてふさわしいデータの添付も可である事を承知させる。

実務型実習オリエンテーション

実務型実習

実務型実習後教育（振り返り）

Ⅳ．実習前に達成すべき課題 ＃⑦

【⑨ 指導ポイント】

動物看護師の視点で記録する事を意識させる。

実習においては、学内の講義・実習で得た専門知識と技術を統合する必要がある。

また、動物の健康を維持するためには、自身が健康でなければならない。

　１）動物や飼養者を理解するための基礎的な知識を身につけておく。

【⑩ 指導ポイント】

学習成果評価基準を基に説明を行い、評価の観点を明確に指導する事。

知識と理解：業務理解と科目関連付け

汎用的技能：アセスメント･計画･評価

対人技能：マナー

分析技能：記録

管理技能：積極性

自律性：自己研鑽

倫理観：職業倫理

　２）認定動物看護師養成に必要な専門知識を身につけておく。

　３）動物病院の法的根拠を把握し、関連する法令を知っておく。

　４）実習の目的を十分理解し、実習段階ごとに自己の目標を設定し、限られた実習

　　　期間内で達成可能な目標を決めておく。

　５）自分が感じたこと、学んだことを相手に理解できるように記録＃⑧するために

表現の方法 ＃⑨について練習しておく。

　６）自分が自立しているか見直し、自分の事は自分でできるようにしておく。

　７）自己の健康管理に十分留意し、規則正しい生活を心がけておく。

　８）実習に持参するものを点検しておく。

　９）最終的な教科としての評価がある事、また評価指標を理解者 ＃⑩して実習に臨む。

Ⅴ．実習のための準備

【⑪ 指導ポイント】

カリキュラムマップの色分け、履修歴チェック表にて確認を行わせる。

・学習履歴 ＃⑪の確認と自己分析。＃⑫

【⑫ 指導ポイント】

ポートフォリオ中の自己分析表（学科目標に対する）を作成させる。

・目的と目標の設定、実習において実現可能な行動計画 ＃⑬の立案。

・ポートフォリオの作成目的 ＃⑭の確認と作成要領 ＃⑮の把握・練習。

・実習項目チェックリストの記録方法の確認。

・実習先についての情報収集。＃⑯

【⑬ 指導ポイント】

実習中での達成しやすい具体的な行動で可。体験型はハードルを低く設定する。

　〈実習先の情報を予め入手することで、実習に対する不安を軽減し、注意を喚起

することができる。〉

　〈実習先のオリエンテーションにて実習担当者より説明してもらうことで説明内容

【⑭ 指導ポイント】

ポートフォリオは実習後の振り返りで具体的なエビデンスとして活用すること、動物看護の記録という意味も含むことを認識させる。

と事前情報が比較検討でき、実習をより効果的に高めることが期待できる。〉

　　１）施設や業務についての情報。

　　２）利用者や動物についての情報。＃⑰

・インターン実習保険等の加入を確認する。未加入であれば加入手続きを行う。

Ⅵ．実習の心得

【⑮ 指導ポイント】

実習ポートフォリオ左欄に実習活動とその思考や考察を記入させ、右欄のエビデンス・エピソード欄にその行動に関した資料（指導者からの助言や、エピソード等）を添付させる。記録する事に意味があるのではなく、振り返り時に記録を参照しながら、自己の課題や改善点を見出すことが重要であることを認識させる。

実習期間中は○○○○専門学校の学生としての自覚を持ち、良識と節度ある行動を

心がけ、常に感謝の気持ちを忘れず取り組む。

・実習時に留意したいこと

　１）安全面に配慮して行動する。

　２）動物医療現場では、禁句とされている言葉が出ないよう確認しておく。＃⑱

　３）禁句ではないが、病名等は飼い主の前で安易に口にしない。

・コミュニケーション

　１）相手を理解したいという思いで接する。

【⑯ 指導ポイント】

実習先の情報は可能な限り入手しておくよう指導する。

　２）まず、相手の話を傾聴する。

　３）自分自身の心身を安定させてから、話を始める。

・観察

【⑰ 指導ポイント】

所在地、設立時期、理念、得意分野、人員構成、来院数、動物病院の種類（１次・２次、高度医療等）。

　１）常にＱＯＬを念頭に、何が必要か意識して観察を行う。

　２）できるだけ主観を除き、ありのままの現実を捉える。

　３）視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚、五感をフルに活用しあらゆる角度から観

察する。

・記録

【⑱ 指導ポイント】

ネガティブ発言はしない。まず、出来る、という意欲からスタートすること。しかし、不可能な場合は、なおざりにせずに、きちんと上長などに伝えること。

　１）他者が見ても理解できるように記録をする（申し送り）。

　２）５Ｗ１Ｈ（いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どのように）で記入をおこない、

状況がわかるよう記録する。

　３）誤字、脱字はさけ、楷書ではっきりと記入する。

　４）メモを取っておく。

・報告 ＃⑲

【⑲ 指導ポイント】

連絡も同様に重要である伝えること。

　１）報告する際は、結論・結果を最初に報告する。＃⑳

　２）顛末は５Ｗ１Ｈで報告する。

　３）緊急を要する報告事項は、躊躇せずに速やかに報告する。

【⑳ 指導ポイント】

ことに当たった場合は、自己判断せず、上長に相談し判断を仰ぐこと。

・服装、身だしなみ、持ち物

１）清潔で華美にならない服装にする。

２）ユニフォームや上靴は清潔なものを使用する（実習先の指定のものがある場合

　　は指示に従う）。

３）仕事をしやすく、動物を傷つけないように爪は短く切り、職業上、不快感を与

えないように注意する（マニキュア･アクセサリーなどはしない）。

４）髪が長い場合は必ず後ろで束ね、実習の進行に支障のないようにする。

５）持ち物

　　　 　・ポートフォリオ

　　　　 ・学生証

　　　　 ・健康保険証

　　　　 ・手帳、筆記用具

　　　　 ・身の回り品

　　　　 ・その他必要なもの

・実習先の指導者に対して

１）熱心な態度で臨む（ひと言も聞き漏らすまいとする姿勢とまなざし）。

　　２）誠実な受け答えを心がける（うなずきと相づち）。

　　３）的確に復唱する（教わったことを言葉で反復する）。

　　 ４）教えに対して忠実に実行する（教わったことを行なう時は余計な解釈を加えずに実行）。

　 　５）心から感謝を示す（必ず感謝の言葉を述べ、恩義を忘れない）。

・利用者や動物に対して

１）守秘義務

　　　　　facebook・LINE・TwitterなどのＳＮＳを利用した情報発信は刑罰の対象となる

こともあり厳禁。実習内容や自分自身の感想も就業期間中はもとより、就業期

間終了後も情報発信しないよう十分に注意する。

２）言葉づかい

お客様や飼い主様に対して言葉も正しく使い、丁寧に接するように心がけ、挨拶は

口先だけでなく、はっきりと相手に伝えるようにする。

・その他の留意事項

１）元気で明るい挨拶。素直に話を聞く。

２）いつも笑顔を絶やさない。

３）実習生として常に冷静であるよう心がける。

４）決められた時間と場所を守る（５分前集合）。

５）持ち込み禁止の物を持ち込まない（携帯電話やカメラなど）。

６）実習中に異常があったらすぐに作業を中止し実習先の指示を仰ぐ。

７）事故やけが（動物、自分も）、動物の逃走には充分気をつける。

８）先生（実習先）の許可なしに動物には触らない。

９）実習先で示された規則・約束事を守る。

１０）実習先の物品を壊したら、すぐに実習先に報告し、また学校にも連絡する。

【㉑ 指導ポイント】

教員は第三者の立場で冷静に事実を確認し、適切に対処する。可能であれば事実を記録させる。

１１）実習先の指示を守り、不明なことは進んで質問し、積極的に実習する。

１２）実習中にハラスメントを感じた場合は、まず学校に連絡する。＃㉑

１３）自分で考えた目標を意識して行動する。

１４）毎日の終わりに１日を振り返り、できなかったことを確認し、翌日の目標を考え

「ポートフォリオ」に記入する。

・勤務時間と出勤時間

１）勤務時間ならびに出勤時間は実習先によって異なるため、各実習先の指示に従う。

２）実習開始指定時刻（勤務開始時刻）の１５分前には着替えを済ませ、準備を整えて

待機する。

３）終了時刻前に自己判断で実習終了（準備を含む）しない。

・実習時の健康管理

１）実習前から規則正しい生活を送る（健康維持・事故防止）。

　２）体調管理に気を付ける。事故防止に努め、休まず参加する。

３）行動範囲に注意し、制限区域に入らない（安全確保、機密保持のため）。

４）病気などで予定が変わったら必ず実習先の担当者及び担任に連絡する。

５）指定日以外に病気等でやむを得ず休む場合は、その理由を実習先、学校の順番

で両方に必ず連絡し、許可をもらう。

６）体調不良などやむを得ない休み･遅刻･早退は分かった時点で報告する。

・実習終了時について

　　　　　　　実習期間中に遅刻･欠勤の多い者、及び実習先の指示に従えず、受入先からクレー

ム等がある学生は、直ちに企業実習を中止する場合がある。

Ⅶ．実習後の振り返り＃㉒

【㉒ 指導ポイント】

担当教員は全ての工程が終了した時点で、ポートフォリオを回収し、実習科目評価表に学習成果指標を基準に評価を行う。

評価が思わしくない場合は、再度作成させ再評価する事も可（できるだけ意欲向上が見られることが望ましい）。

・実習先にお礼状を出す。

・実習後の自己評価。

　１）自己分析表への記入＃㉓

　　　実習を通して習得できた知識や情報等、ポートフォリオを参照しながら、

自己分析表に記載する。

　２）自己評価シートの作成＃㉓

　　　評価基準に沿って自己評価を行うが、その際に自身が記入したポートフォリオ

を参照しながら、自己評価をおこなう（他者と相談しながらも可）。

　３）自己分析、自己評価を参照しながら次の課題点＃㉔ をまとめ、所感欄に

【㉓ 指導ポイント】

自己分析表に記載されている内容が、ポートフォリオにエビデンスとして提示されているか確認を行う。

記入する。

・報告会の開催＃㉕

　１）グループワークによる相互評価や情報の共有を行う。

　２）実習報告会にて発表を行う。

【㉔ 指導ポイント】

課題点を作成させる段階で、補助型の教育目的・教育目標を意識させる事。

【㉕ 指導ポイント】

1）.2）どちらかでも可。インプットされた知識や情報をアウトプットする事で確実なものとなるため、必ず実施する事が望ましい。

発表の要旨としては、動物病院の実態がどうだったかと言う事象ではなく、実習を通して自身が感じたことや学びえたこと、また動物看護課程を意識して今回の実習に取り組めたかどうか、次期実習に対しての課題点や改善点等を報告させる。